

第18回(仮称)釜ヶ崎夜間学校

29 夜々時より希望の家一階にて テーマ 自衛労働について

わしらは誇り高き労働者だ。

ちよっと前までは、現場で親父や現場監督が今日は現金を何 買ってきたと話しているのを良く聞かされて頭にきたものだ。

良くある話しと言えば、昔から比べれば、少しづつ減ってはきているが、現場や飯場での暴力事件は、以然として後をたたない。いくら資本主義の世の中とは言え、牛や馬でもあるまいに、

「仮称」釜ヶ崎夜間学校とは
我々が釜ヶ崎で、あるいは日雇労働者として生活している中で、誰でもがいつかは必ずぶつかると、一人の問題であると同時に皆の問題でもある、仕事や病気の問題等を皆で解決していく為

それが現実にかかり通っている。これらに共通しているのは、わしらをちゃんとした「労働者」として認めていないということである。

言葉の上だけで言えば、わしらもわしら自身のことをアニコと呼ぶ。しかしそれだからと言って、決して誇りを捨てたわけではない。言葉の上だけの「労働者」ならこっちは、先生と生徒の関係ではなく、皆が生徒で先生でもあると言う好等な関係の中で、互いの知識と経験を通して考え、学び合う自由な場です。

是非多くの仲間が参加して下さい。又、運営にも積極的に参加して下さい。

から願い下げた。

問題は言葉の上でのあれこれではなくわしらのやっっている仕事を内容において、どう評価しているかということだ。そこで今回は、わしらの仕事が本当にとるに足りないものなのかどうか、皆でキツナリと話し合ってみたいと思います。多くの仲間が参加して下さい。

夜間学校

「これからの予定」

- ☐ 2月5日 (木) 「労働」
- ☐ 2月12日 (木) 「釜ヶ崎の歴史」
- ☐ 2月19日 (木) 「越冬と病気(3)」
- ☐ 2月26日 (木) 「労働」

※ 夜間学校についての意見を聞かせて下さい。特に、こんなことについて話したいと言う希望のテーマがあれば是非聞かせて下さい。また、夜間学校ニュースへ原稿をお寄せ下さい。この釜ヶ崎夜間学校は仲間の希望と意見によって運営されます。

(仮称)釜ヶ崎夜間学校ニュース 第17回報告テーマ「越冬と病気」1.22

寒さに打ちかつ

仕事と団結を

青カン・行旅病死

この現実をどうするか

今年は例年になく厳しい冬です。毎月才三週目は「医療について」の話しあいをつづけています。先回は「越冬と病気」について二回目の集まりでした。

越冬斗争がつづけられている現在、約一〇〇人から一五〇人の青カン者が確認されています。例年よりも病気に特に結核を中心として一で入院した人、ぶききたんが多いなかで、またこれだけの仲間が残されているのです。そのうちのかなりの人が、病气や高年令でゆけない人もいます。病气では、結核・肝臓・高血圧、胃炎・胃かいよう・心臓病・腰痛・ねんざ、打撲などがあげら

れています。

この現実を、ただこうなっているという数字やデータとして示されるのでなく、つくられたものであると意識することが大切ではないでしょうか。つまり日本のいわゆる経済繁栄を支えた日雇労働者を谷間に追いやった初力が存在していることです。単なる個人的な本人の事情だけではなないので。この問題はひとりでは担いきれるものではありません。皆んなの問題として団結し打破していく力をつけていかねばなりません。

互いに認めあう

人の和を築く

釜ヶ崎の場合、特に人間関係が破壊されている状況からくる問題がいろいろ上げられます。一緒に仕事に行き終って一緒に

一研飲んで意気投合しても、翌日は知らんふりとする関係が少くありません。だからお互いを認めあう人の和を築くことが、今求められているのではないかと熱く語りました。確かにこの人と人とのつながりをテコにして、厳しく寒いこの冬を乗り切る力としていきたいものです。

「みんながつくるみんなのひろば」
「(仮称)釜ヶ崎夜間学校」
運営委員会準備会

西成区萩の茶屋二一八一—八
釜ヶ崎・喜望の家内

電話 〇六—六四七一三九四六
(毎週木曜日夜間七時—九時の間)

